

平成14年度「秦野地区」豊かな体験活動

神奈川県秦野市立南が丘中学校

はじめに

秦野市は神奈川県の中央部の西部に位置し、丹沢山塊のふもとにある。古くはタバコや落花生の産地として栄えたが、現在はカーネーションやバラの温室栽培などに移行している。また、工業団地もあるが、小田急線が市の中央を通っているため、ベッドタウンとしても発展している。人口はおよそ16万8千人ほどである。

本校がある南が丘地区は、東名高速道路の秦野中井インターの近くにあり、20年前の昭和57年に丘陵を切りひらいてできた団地と以前からの地域とで構成されている。団地には38棟の団地と一戸建て住宅の、計1,463戸(5自治会)があり、団地周辺の旧地区には1,564戸(8自治会)の住宅がある。また、団地の中には、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、公民館、郵便局、ショッピングセンター、クリニック、シニアマンション(約470人在住)があり、近くには上智短期大学もある、教育環境の整えられた地区である。

若い町であるために人間関係が希薄なところもあるが、反面、その克服に向けて創造していこうとするエネルギー豊かな面も持っている。当地区では5年前から「南が丘地区豊かな心を育む協議会」を設け、協議会を核として子どもたちの豊かな心を育むために、地域協働での活動を活発に行っている。

1 「南が丘地区豊かな心を育む協議会」のあゆみ

(1) 平成9・10年度 文部省(当時)家庭・地域と連携した道徳教育研究指定校(幼稚園、小学校、中学校)

平成9年10月 「地域と幼稚園、小学校、中学校並びに家庭、地域、団体が協働により、子どもたちが豊かな心で、明るく生き生きと育つ環境づくりを推進する」ことを目的として、「南が丘中学校区豊かな心を育む協議会」を設立

平成11～13年度 県教育委員会研究指定「地域との協働による学校づくり推進事業モデル校」(幼、小、中)

12年度から高等学校も指定を受ける。「南が丘地区豊かな心を育てる協議会」と改称

(2) 構成メンバー(29名)

幼稚園長、小・中・高の各校長、幼・小・中・高の各PTA会長、各自治会長、公民館長、主任児童委員、地区老人会長、青少年指導員、青少年相談員、地域指導者代表、教育ボランティア、シニアマンション支配人

他にオブザーバーとして、教育事務所・市教委の指導主事・社会教育主事、各園・校の教頭・研究主任等

(3) 活動

ア 協議会を年5～6回開催

平成14年度から前半に幼、小、中、高の4分科会による協議、後半を全体会として運営する。

- イ 広報紙「翔丘」を年7回発行（担当は園、学校で交代）
幼・小・中の全家庭と教職員、高校の各学級・教職員、各委員に配布
各自治会にて回覧、公民館に常置

ウ これまでの活動例

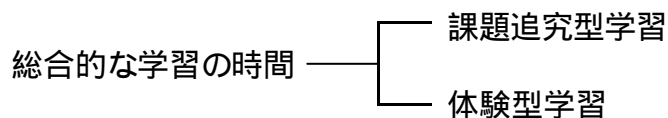
- (ア) 有害チラシに対する対応
(イ) 「CAP」の実施
(ウ) あいさつ運動
 あいさつ通りや広場の設定
 標語、ポスターの募集および掲示
 看板の設置
(エ) 地区20周年記念式典を挙行(H13.10.20)
(オ) 丘のふれあい音楽会（公民館主催 昨年第1回）
(カ) 14年度の活動の重点
 あいさつ運動の推進
 ふるさと意識の向上
 園児・児童・生徒の安全確保
 幼、小、中、高の教職員と生徒有志で公園の樹木の剪定および清掃

2 中学校と地域との連携

- (1) 幼稚園.....保育実習、調理実習
(2) 小学校.....教員の異校種体験、ボランティア活動参加の呼びかけ
(3) 高等学校.....部活動指導
(4) 公民館.....音楽会、元気っ子クラブ、特別催し物などへの参加
(5) シニアマンション.....講演会の講師依頼 文化祭に合唱出演
(6) 地域.....職場体験学習、「丘のふれあい学習」の講師依頼、地域行事「丘のマラソン」へ参加及びボランティア活動
(7) P T A.....PTSフェスティバルでのボランティア

3 本校の今年度の研究主題

「豊かな心を持ち、自ら考え、行動する生徒の育成
～総合的な学習の時間の支援・評価の充実について～」



4 具体的な実践例

- (1) 職場体験学習（1年生）

ア 目的

- ・ 職業の現場を体験することにより、自分の生き方や今後の進路選択に役立たせる。
- ・ 社会人としての先輩と接する中で、働く意義や喜び、苦しさを知るとともに、望ましい職業観を持つ。
- ・ 将来の社会人として、ふさわしい立ち居振る舞いを身に付ける。

イ 日 時 平成14年11月7日（木） 午前8時～午後5時

- ウ 事前の学習 10月22日(火)午後 職業講話
「中学時代から現在までの進路選択について」
市内に勤務の会社員
- エ 体験事業所 秦野市内を中心とした43事業所

(2) 総合的な学習の時間(課題追究型)のための講演会 (全学年)

ア 目的

- ・ 各領域の専門家による講演によって、領域についての情報を得るとともに、各自のテーマ選択に役立たせる。
- ・ 講演会により、身近な人とふれあいながら、地域の環境、文化や芸術などを学ぶ。

イ 日時と内容 2時間扱い

- ・ 4月18日(木)13:50~ 地域
「丹沢の自然と動植物」 秦野ビジターセンター職員
- ・ 4月25日(木)13:30~ 国際理解
「我が祖国カンボジア」 カンボジア難民の方
- ・ 5月7日(火)13:50~ 環境
「秦野市における地下水の涵養と浄化の取り組み」
秦野市環境保全課職員
- ・ 5月13日(月)10:50~ 情報
「白黒のラインに秘められた情報~POSシステムについて~」
株式会社職員
- ・ 5月22日(水)14:25~ 健康・福祉
「ボランティアに支えられて~ボランティアに助けられ、
ボランティア活動で成長して~」 あしなが育英会職員

(3) 保育実習 (3年生)

総合的な学習の時間の一環として、幼稚園との異年齢交流を中心とする時間を週あたり1時間実施している。技術・家庭科における幼児の発達に関する学習は1~2年で終了しているため、それを基礎にした発展・体験的学習の場としている。生徒たちは授業で考え作った手作りおもちゃを持って幼稚園に出向き、一緒に遊んだり、また、植え付け・収穫したサツマイモを中学校で調理しながら、幼稚園児と交流している。兄弟姉妹の少ない家庭、また、比較的若い人の少ない園で生活する園児にとって、中学生は頼もしい存在であるととらえているようだ。中学生も園児との交流を楽しみにしている。

5 学校支援委員会について

学校支援委員会の組織は、現在協議会委員(分科会)にて構成し、活動をしている。しかし、これまでの実践を踏まえ、学校と家庭・地域の協働による教育活動の充実をめざして、豊かな心を育む協議会を母体にして、学校支援委員会を開設したいと準備を進めている。

豊かな体験学習を支援する活動と組織

活動生徒	活動内容	指導及び支援団体
各教科・ コース等	課題追究学習 各教科の体験学習 ボランティア学習	学年担当教員、公民館、教育関係諸機関、PTA 教科担任、地域指導者協議会 保健安全指導部、青少年育成団体、自治会、民生委員
各学年	校外学習 丘のふれあい学習 職場体験学習	学年担当教員、教育関係諸機関、PTA 学年担当教員、地域指導者協議会、老人会 学年担当教員、企業、商工業団体、PTA
学校全体	あいさつ運動 課題追究学習 翔丘祭文化の部	生徒指導部、自治会、老人会、民生委員、PTA 学習指導部、地域指導者協議会、教育関係諸機関 翔丘祭担当教員、生徒会、PTA、地域指導者協議会

終わりに

希薄な人間関係の中で、子どもたちが豊かな人間性や社会性などを育むためには様々な体験活動が重要であるとの認識のもと、諸活動を実施している。子どもたちの変容も多少なりとも現れていると思われる。しかし、中学校での教育課程の編成、学校段階・学年等に応じた体験活動の体系化、関わって貰える事業所・団体・人などの課題も多くある。

今後、学校支援委員会の見直しを含めてよりよい活動になるよう努めていきたい。